

< 巻頭言 >

公衆衛生分野における e ラーニング (遠隔教育) の現状と課題

土井徹

国立保健医療科学院研究情報センター長

Toru DOI

Director, Center for Information Research and Library, National Institute of Public Health

教育は微妙な言葉の相違を感じ取れる対面が好ましいのはもちろんであるが、時間も含めて受講者に大きい経費が当然かかることになる。生活に多くの選択肢が存在するようになった今、教育を受ける形も多様化してきた。それらを可能にしたのが IT インフラの整備である。一昔前は遠隔教育といえば通信教育のことであったものが、今ではインターネットを用いた遠隔教育 (e-learning と呼ぶ方が最近が多い) が非常に多く行われている。検索エンジンである Google で「遠隔教育」を検索すると実に 805,000 件がヒット (ちなみに「e-learning」での検索では 61,700,000 件。これには世界中の英語圏も入っている) する。遠隔教育は実社会で活用されている場合が多い。商品として外国語会話、資格取得、趣味等の分野で活用されている (この場合は、DVD として販売されていることも多い) ものや、社内での社員技能研修や販売のための商品説明に使われている。これらが受講者の頭脳 (あるいは心) に響いて伝わっているかを知るために大体は習熟度試験が用意されている。とともに、受講状況を提供者側が把握するための LMS (Learning Management System) も発達してきている。これによれば、各受講生がいつ、何回遠隔教育に接続したか、習熟度試験の結果はどうだったのか等を知ることが出来る。ただ、このような遠隔教育の形態は、集合教育 (教室に集合して貰っての授業) に携わってきた人々からは「受講生の顔が見えない」ので不安が残るといふ言も聞かれる (本当に習熟したのか、将来の自学へ道が開かれるような理解をしたのか)。「受講生の顔が見えない」というのは、映像で受講生の顔を見れば解決するというのではなく、受講生が理解へ至る顔つきの変化を見ることができない、ということである。これは路面状況によってアクセル・ブレーキ・ハンドルを操作しつつ車 (乗客) を目的地に運ぶというドライブにも似ている。しかし、多くの場面で教育への需要が高まっている今、集合教育の実施だけではまかないきれないのは明らかである。大量輸送機関として軌道を持った鉄道が必要なように、教育においても可能な地点まで運ぶ遠隔教育が必要であろう。集合教育での授業中の受講生の理解度は多くの場合教師にはアナログ的 (授業中の受講生の前後の態様を量として計る) に把握される。アナログ量を細かい分割で数値化しデジタル化することによって通信情報量の増大と加速化が可能になったように、今まで集合教育で蓄積してきた指導上の留意点を細かく切り取って遠隔教育の中で再構成していくデジタル化 (数値として計る) が必要とも思える。そのためには受講生の個人差に留意した指導法と習熟度の関係を整理しておかななくてはならない。

遠隔教育は当然学校教育にも導入されてきており、その形態は様々である。受講生も在校生に限らず、社会人に門を開いているものもある。国立保健医療科学院は前身の時代から自治体職員への教育研修を担当してきている。その中に遠隔教育をどの様に導入し、受講生のニーズに応えるかが重要である。自治体職員は大学生とは異なり、日常業務を持っているので夜自宅で受講できることが望ましい等考慮に入れるべき事が多くある。科学院が教育研修の主たる対象としている自治体の技術専門職員は専門分野に関する基礎的な技能を既に習得済みなので、コンプライアンスや個人情報保護等時宜を見た単発の内容あるいは地域保健医療福祉の専門職として必要だが専門技術を学ぶ教育課程には含まれなかった内容 (組織管理論等) に関しては技能検定に類する習熟を求め、それ以外は応用力の増大を図る手法 (ケーススタディ等) を積極的に取り入れることも有効と思える。その題材の中に新知識を導入するなど教材作成上の工夫も必要となる。遠隔教育の運営には、講師・受講生・教材等の登録作業などロジスティックな業務が多彩である。大学では e-learning 運営に多くの大学院生が参加し、企業では e-learning 運営の必要部門に資金が投入される等運営支援の資源が豊富である。それに対して運営支援の資源が不十分な組織が遠隔教育を実施するには、教師自身が容易に教材を作成かつ web に登録でき、内容もいつでも更新可能で、実施分野の拡大も容易ということが、遠隔教育を陳腐化させないためには必須となろう。

教育形態としては、ID, PW を持たず誰でも教材を閲覧できる形態もあるが、これは教育というよりも教材提供あるいは知識提供という意味合いの方が強い。「教育」と銘打つからには ID, PW を与えたクローズドシステムで、担当教師による密な教育の過程が必要である。「教育」とは「教える」だけではなく「育む」ことが重要で、遠隔教育の中でどのように「育む」のかが大きな且つ永遠のテーマであろう。